

クリスマスおめでとうございます！ようこそ八千代聖書教会のクリスマスイブ礼拝にお越しくださいました。

毎年私たち教会はこのクリスマスイブに礼拝をささげています。クリスマスイブとはクリスマスの夕方、クリスマスの夜を意味します。聖書の書かれたイスラエルでは1日の始まりが日没からですので、クリスマスの1日は夜から始まります。ですので24日の日没から明日25日の日没までがクリスマスの1日、ということになります。クリスマスは、聖書の記す真の救い主、イエス・キリストがこの地にお生まれになったことをお祝いする時です。皆さまに救い主イエスさまの恵みと平安が豊かにありますように心からお祈りしております。

イエス・キリストは馬小屋で、この地にお生まれになりました。今日先ほど朗読していただいた聖書の箇所、救い主の母となったマリアがイエスさまを産み「布にくるんで飼葉桶に寝かせた」と言われていました。「宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」とも言われています。神の子であられ真の神であるお方が、貧しく居場所なくお生まれになった。それほどまでにへりくだり、低くなって私たちのところに来てくださった。そのことを聖書は私たちに教えています。そしてこの救い主イエスさまの誕生の知らせを最初に受け取ったのは、羊飼いであったと聖書は教えています。ルカの福音書2章8-9節。

**さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。**

**すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。**

羊飼いは当時、とても身分が低く人々から信頼されない職業であったと言われています。彼らは家畜の世話ゆえに安息日を守ることを始め、旧約聖書に記される律法を守ることができませんでした。そのような立場でありましたので、裁判の場で羊飼いの証言は正当な証言として受け入れられない。そのように言われていた記録も残っています。家畜のお世話で汚れていたでしょうし、社会的にもあまり人が近づきたくない、人々からのけ者にされるようなそんな存在が羊飼いであったということです。そのような羊飼いたちに、世界で最初に救い主の誕生が知らせられた。驚きの出来事を聖書は私たちに教えています。救い主誕生の知らせを語った御使い、天使は羊飼いにこのように言いました。10-12節。

**御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。**

**あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」**

御使いは羊飼いに言います。「恐れることはありません」暗闇の中急に現れた天使に羊飼いはびっくりし恐れたことでしょう。主の栄光が彼らを照らしたので、彼らは非常に恐れたと9節で言われています。驚き怯える羊飼いたちに、御使いは「恐れることはありません」恐れるなと語ります。この恐れることはないという言葉はイエスさまのお誕生を記すクリスマスの出来事の中何度も繰り返される言葉であり、さらには聖書全体が繰り返し繰り返し私たちに語っている大切なメッセージでもあります。先ほど読んでいただいたマリアへの御使いの告知の場面でも「恐れることはありません」という言葉がありました。恐れることはない。神さまの御業に直面する時、神さまご自身と出会う時、私たち人間に起こるのは「恐れ」です。羊飼いやマリアも、御使いの到来、そして神さまのご栄光の現れに大きな恐れを抱いたことでしょう。しかし御使いは「恐れることはない」と語る。御使いを遣わされた神さまは「恐れることはない」と語ってくださるのです。恐れることはない。神さまは今日もこの礼拝に連なる私たち一人ひとりに語りかけてくださっている。そのことを私たちは今晚ともに覚えたいと思います。

私たちの人生にはさまざまな「恐れ」があります。いろいろなことへの恐れがある。私は小さい頃、夜が怖くて暗闇を恐れる子どもであったことがありました。今はそのように夜を怖がることはあまりありませんが、暗闇の中いるとなんとなく怖いと感じたり、不安になったりすることはあるように思います。そのような暗闇への恐れから、病への恐れ、死への恐れ。愛する人との別れの恐れ、そう言ったものを含めて漠然と将来に対して恐れを抱いている。多くの人がそのように恐れや不安を抱えて生きているのではないのでしょうか。

そしてさらにこの恐れは、神さまの前に全てが明らかにされるという恐れとも関係があるでしょう。人には隠していても、自分自身も気づかないふりをしていても、私たちの心には誰にも知られたくない、明らかにされたくない汚れた心や暗い思いがある。そのように言えるのではないのでしょうか？自分のこんな汚れた心、愛のない心、人を赦せない思いや蔑む心、自己中心の思い。それが明るみに出ると思うと、恐れを抱く。聖書は神さまが私たちの心の全

てをご存知であると教えています。そんな神さまの前に立たされる時、私たちは皆大きな恐れを抱かざるを得ない。そのように言えるのではないのでしょうか。

それら一切の恐れをひっくるめて、聖書は「恐れることはない」と語ります。恐れなくていいと、神さまは言ってくださるのです。なぜなら、救い主が私たちのために生まれてくださったから。神さまがあなたを愛し、あなたのために御子イエスさまをこの地に送ってくださったからです。御使いは羊飼いたちに語りました。もう一度11節。

**今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。**

救い主はあなたがたのために、あなたのために生まれたのだと御使いは語ります。当時人々からのけ者にされ、信頼されていなかった羊飼い。神さまの救いからほど遠く、神さまご自身から最も遠く離れていると思われていた、そんな羊飼いに救い主の誕生が知らされた。救い主はすべての人のために、私のためあなたのためにお生まれになったと聖書は教えています。

そして御使いは、救い主が飼い葉桶に眠っていると語ります。この言葉を聞いて羊飼いたちは救い主を探しに行きますが、救い主が飼い葉桶に眠る赤ちゃんであること。このことを通しても、救い主が羊飼いたちのために、そしてすべての人のために生まれくださったお方であることを私たちは知ることができます。飼い葉桶に眠る赤ちゃん。もし救い主が生まれたのが王宮や神殿であったなら、羊飼いたちは会いに行くことができなかったことでしょう。立派で綺麗な場所に、彼らは似つかわしくないからです。またもし救い主が赤ちゃんでなく立派な大人であったら、会いに行くことを彼らは躊躇ったかもしれません。しかし飼い葉桶に眠る赤ちゃんなら、馬小屋に生まれた救い主なら、自分たちも会いに行くことができる。恐れずに近づくことができる。そう羊飼いは考えたのではないかと思うのです。どんな人でもイエスさまに会いに行くことができる。イエスさまのもとには誰でも恐れなく行くことができる。そんな救い主としてイエスさまはお生まれくださったのだということです。

私たちも今日、この礼拝へと招かれ導かれてきました。私たちは羊飼いのように、汚い身なりではないかもしれませんが。羊飼いのように人から嫌われたりけ者にされたり信頼されていなかったりはしないかもしれない。しかし私たちの心はどうでしょうか？私たちは今一度立ち止まり自分自身を振り返って、神さまの前に自分の罪汚れを素直に認め告白する者でありたい。そして救い主イエスさまのくださる罪の赦しと真の平安を受け取る者でありたいのです。醜い心の私も、罪に汚れたこの私も、イエスさまの元に行くことができる。どんな罪もどんな汚れも受け入れ赦し、きよめてくださるイエスさまが、私たちのためこの地に生まれてくださった。どんな時も恐れなく、このお方に立ち返ることのできる幸いを私たちは今晚ともに覚えてまいりましょう。

救い主イエスさまは、真の光なるお方としてこの地にお生まれくださいました。今晚招きの言葉として読まれたヨハネの福音書1章4-5節。

**この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。**

今日この礼拝の中灯されているろうそくの光は、真の光であられるイエスさまを表しています。暗闇が象徴するように暗く罪に塗れたこの世界に、真の光なるイエスさまが来てくださった。暗闇の中怯え恐れる私たちに、汚れたこの私の心にイエスさまという光が与えられた。暗闇を照らす、真の光であられるイエスさまを私たちはともに見上げてまいりたいと思います。このお方はすべての人の救い主です。このお方を信じこのお方を心にお迎えするなら。このお方の光に照らされて歩むなら、私たちは死の恐れや暗闇の恐れから解放され、本当の喜びと平安の中を生きることができる。そう聖書は約束しています。私たちのため、私のためあなたのためにお生まれくださった救い主イエスさまを心にお迎えして、このお方とともにある歩みを今晚ここからともに始めてまいりましょう。

お祈りをいたします。

「救い主イエスさまをこの地に送ってくださった父なる神さま。今晚このように、皆さまとともに救い主イエスさまのお誕生を祝う礼拝をおさげできますことを感謝します。イエスさまが私たちのためにこの地にお生まれくださったこと、暗闇を照らす光として、私たちを恐れから解放するお方として来てくださったことを感謝いたします。救い主イエスさまのお誕生に心から感謝し、このお方を心にお迎えして生きる私たちとどうからせてください。この会堂に集われた方々、オンラインで礼拝をしておられるお一人おひとりに、救い主イエスさまの恵みと平安が豊かにありますように。みことばに感謝して、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」